

地域のみんで見守り活動



亀山地区社会福祉協議会

会長 大島正彦

平素より亀山地区社会福祉協議会（以下亀山地区社協）活動に対しましてのご理解・ご協力に感謝申し上げます。新型コロナウイルス感染症の発症から3年経過しました。やっと、日常生活における「マスクの着用」が緩和されますが、以前の様な生活に戻るのは大変な事と予想されます。この期間の皆さまのご協力に感謝申し上げます。

亀山地区社協としましても、事業の出来なかったこの3年間のブランクをどの様に回復させるのかを皆さまと共に考えて福祉のまちづくりを推進してまいります。

まず、考えたいのは、地域の見守り活動です。地域の見守り活動には「高齢者の見守り活動」「子ども達の見守り活動」の2つがあります。

高齢者の見守り活動は一人・二人暮らしの人々を中心とした安否確認が重要です。現在、核家族化が進み、高齢者が子ども家族と離れて暮らす事が多くなり、安否確認が難しくなってきました。最近、高齢者の孤独死をよく耳に致します。この事を思った時、愛のある、隣近所の方の見守り活動が大切となります。これは、対面での見守り、声を聴いての見守り、姿を見ての見守り等の活動です。昔流に言えば「向こう三軒両隣」の見守り活動を推進する事と思います。

ここ数年「コロナ渦」の対策で外出の機会が激減し、人と接触しての安否確認が難しい状態にあります。今こそ、地域がオール家族としての思いを持って、見守り活動に取り組む事をお願いいたします。

亀山地区社協では「近隣ミニネットワークづくりの推進事業」を高齢者の見守り活動の柱として皆さまに協力をいただいております。この活動を、更に強力に推進して、最優先の活動として取り組んでまいります。

もう一つは「子ども達の見守り活動」です。この活動は「亀山学区ウオーキングパトロール隊（以下パトロール隊）」による子ども達の登下校時の見守り活動で、亀山地区社協も支援しております。活動は、登下校時に通学路の要所要所での立証見守り、バス通学地域においては、乗車下車の指導です。

この様に、パトロール隊員の皆さまには「地域の子どもは地域で守る」との信念をもって活動を行ってらっております。

しかし、亀山小学校では新学期より登校時に集団で登校する「登校班」が諸般の事情から廃止となりました。残念です。新学期からは、子ども達は自由に登校する事になります。従いましてパトロール隊には、今まで以上に見守り活動の強化をお願いし、ご負担をかける事となります。

そこで、地域のみな様にお問い合わせがあります、新たにパトロール隊に参加をお願い致し、見守り体制を強化したいと考えております。そして、地域の皆さまには、午前7時頃から7時40分頃まで皆さま方の周囲で、子ども達の見守り活動をお願いしたいと思います。

4月からの新しいランドセルを背負った新1年生は、2年生から6年生のお兄ちゃん、お姉ちゃんにも、自分の住んでいる地域にもなじんでおりません。地域において、この時間帯における地域の活動、ゴミ出し等で、子ども達に「目配り」「気配り」をしていただき、地域の「宝物」である子ども達の「見守り活動」をよろしくお願いいたします。

今後とも、亀山地区社協の活動へのご協力をよろしくお願いいたします。

第六回 合同勉強会 講座要旨



認知症の人への接し方

広島市認知症地域支援
推進員 野々原祐香

昨年度に引き続き、今年度も合同勉強会で認知症についてお話をさせていただきました。

2022年9月末時点で、安佐北区の65歳以上の高齢者数は約48,000人(市内第2位)、高齢化率は約35%(市内第1位)となっており、区内の少子高齢化が進んでいます。また区内の認知症の人は約8,000人となっており、今後も高齢化に伴い認知症の人の数は増加していくと予測されています。

認知症の人の症状として、徘徊が見られることがあります。安佐北区でも、徘徊等によって警察に保護される行方不明高齢者の数は増加傾向にあります。町で徘徊が疑われる高齢者に出会った時には、どのように関わればよいでしょうか？このたび、「認知症の人への接し方～対応のポイントと声掛け体験～」と題して、徘徊についてお話をさせていただきましたので、概要をご紹介します。

(1) 徘徊について

徘徊とは、家の中や外を歩きまわる行動をいい、認知症の症状の1つとして見られることがあります。認知症の症状として記憶障害(直近のことが覚えられない)がある場合、行動開始時にあった目的(どこに行こうとしていたのか、何をしようと思っていたのか等)が分からなくなることがあります。また出かけた後には、見当識障害(今がいつか、ここがどこか分からなくなる症状)のため、自分が今いる場所が分からなくなり、道に迷ってしまうことがあります。そして、認知症の症状である判断力の低下から、迷子になっても対処方法が分からず、徘徊につながる場合があります。

このように、徘徊は客観的には目的不明に見えますが、本人にとっては、はっきりとした外出目的があることが多いと言われています。

認知症の方は周りを気にすることや注意することが難しくなるため、徘徊が起こると、事故や熱中症、低体温症などのリスクもあり、命に関わる場合があります。

(2) 徘徊が疑われる方への関わり方について

徘徊が疑われる方に出会った時には、もしかしたら認知症の症状がある方かもしれないという視点を持ちながら、やさしい口調で穏やかに話をしていただけたらと思います。具体的な7つの接し方のポイントをご紹介します。

(7つのポイント)

- ①まずは見守る
- ②余裕を持って対応する
- ③声をかけるときは1人で、まずは自己紹介を
- ④後ろから声をかけない
- ⑤やさしい口調で、笑顔で
- ⑥おだやかに、はっきりした話し方で
- ⑦認知症の人の言葉に耳を傾け、その人の言葉を使ってゆっくり対応する

上記のポイントに気を付けながら穏やかに声をかけ、安全を確保し、もし手がかりがあれば家族に連絡します。もし手がかりがなければ警察に連絡し、保護していることを伝えて下さい。

(3) 広島市のシステムについて

広島市では、認知症により外出したまま自宅に帰れなくなった高齢者等の早期発見・早期保護のための2つの仕組みがあります。

①はいかい高齢者等 SOS ネットワーク

事前に登録のあった対象者の個人情報をも市と警察等の関係者で共有し、行方不明が発生した際には関係者が協力して対応します。

②認知症高齢者等保護情報共有サービス

事前に登録することで発行される「見守りシール(QRコード付)」を本人の服や持ち物等に貼り付けます。身元不明者として保護された場合に、発見者がシールのQRコード

を読み取ることで、家族への円滑な引き渡しが可能になります。

認知症の症状があり、自宅に戻ってくるのが難しくなる可能性のある場合には、早めに上記のシステムに登録しておくことをお勧めしています。安佐北区地域支えあい課や地域包括支援センターで登録することができますので、少しでも不安がある場合にはご相談下さい。

講座の中では、実際に声掛けの体験をしていただきました。



認知症の方（右 亀山包括職員）にやさしい口調で、笑顔で声をかける大畠会長

認知症は誰でもなる可能性があり、特別なことではありません。認知症になっても、住み慣れた地域でできるだけ長く生活を続けていくためには、地域の皆様が認知症について正しく理解し、見守りあえるような関係づくりが大切です。今後も一緒に認知症について学びましょう。

亀山BASEスタートアップ 呼びかけの会 開催

亀山地区を地域共生社会にするためのネットワークづくりを目指して亀山BASEスタートアップ呼びかけの会が2月25日（土）に、地域交流スペース OKAZAKI でありました。

地域交流スペース OKAZAKI は、地元の岡崎さんの居宅（亀山8丁目19-18）だったものが地域の交流のスペースになるようにリフォームされて、去年の11月末よりオープンしたも

のです。

今回のこの会は、亀山や近隣地区で、福祉、まちづくり、地域活動、ボランティアなど日々人と暮らしの困りごとに関わっている人たちに呼びかけられました。

コロナ禍を機に国の内外での「孤立」の問題は深刻化しています。又、貧困、高齢者介護、ひとり親家庭、外国人、子育て、不登校、引きこもり、精神障害などの問題が長期化、複雑化してきている現状もあります。近年のSDGsの高まりと同時に「地域共生社会」という目標が推進されるようになり、国の施策のひとつに「重層的支援体制整備事業」が出てきました。身近な言葉にすると、地域の困りごとは地域の力や資源でカバーしながら解決する。あらゆる分野が互いにタッグを組み複雑に絡み合っている課題解決に取り組む環境整備ということでしょう。そのような背景がある中でここ亀山近隣地区でも互いの連携の大事さ必要性を思う現場での声が一致し、呼びかけ人に、まちづくり四日市役場、NPO ブエンカミーノ、縁が和、百人邑（むら）が声を上げ、開催されました。

当日の参加者は、亀山近隣地区の各方面から70余名ありました。



講演される田仲課長

講演として厚生労働省、社会援護局 地域福祉課課長の田仲教泰氏の「地域共生社会の実現～包括的な支援体制の構築～」があり、この日の会の力強い後押しとなりました。この会の目指す主旨が社会の流れの中で必要なものであり、時宜にかなったものである事を今までの経

緯をたどりながら話されました。又従来の上意下達的な組織の縛りを取っ払って、めだかの学校の歌のような誰が先生か生徒かわからない誰もが支えかつ支えられる柔軟な社会が求められているとの話もありました。個々人の存在の価値に添った話して、集まった人たちの励ましのエールにもなった講演でした。



大島会長による激励の挨拶

社協の大島会長の地域を代表しての激励の挨拶。若者自立支援のNPO ブエンカミーノの吉川望氏のコロナ禍の時代になってより表面化し深刻化した孤立に関する思い。又、同団体の金志明(きむ ちみよん)氏の、人を知っていることによって繋がりづくりができたという具体的体験事例を通しての発表と続きました。

呼びかけした4団体のそれぞれの活動内容や和気あいあいのメンバー紹介に続いて、座談会では、元民家の佇まいの気楽さもあってか集まった皆さんそれぞれ団体の忌憚のない現状の問題や思いも出てきました。その中で広島市中心部でNPOを運営している人から、活動の継続にはベースになる収益をどのようにして得ていくかの議論が必要、という貴重な意見もありました。

この一部の会の終わりは、亀山BASEの代表者になった金志明氏の一本締めで閉じました。

後の二部はお楽しみの懇親会で、地域食堂ぶどうの木の皆さんの沢山の手作り料理と縁が和からは白衣に和帽子のいでたちの蕎麦匠職人の人たちが打った美味しい蕎麦がふるまわれま

した。一緒に食べ飲むことでより一層のざっくばらんな交流とつながりのひと時がもたれました。

亀山地区社会福祉協議会
広報部 吉川 洋子

事業報告

令和4年10月1日
～令和5年2月28日

◇亀山学区献血実施

＝令和4年10月1日(土)アルゾ可部店
受付者数66名 採血者数60名

◇第六回合同勉強会

＝同12月2日(金)亀山公民館
講座 認知症支援について(実施編)
講師 安佐北区認知症地域支援推進員
野々原祐香氏

◇在宅要介護者、介護者への配食

＝同12月4日(日)配食対象者60名

◇赤い羽根共同募金

＝同12月末で895,870円(前年の80%と大幅減少)

◇広報紙「かめやま」125号

＝令和5年3月31日発行

地域福祉事業にご寄付

亀山社協に令和4年10月1日から令和5年2月28日までの間、次の皆様から貴重なご寄付を頂きました。

謹んでお礼申し上げます。

◎香典返し

綾 西 空岡範行様(父・輝行様)

◎一般寄付

子育てサロンどーなつつ様

お願い

香典、お見舞い、お祝いのお返し等を亀山地区社協へご寄付の程お願い申し上げます。

窓口は自治会長、町内会長、民生委員、社協役員です。